

## 発掘調査の概要

### 藤原宮跡大極殿院回廊の調査（飛鳥藤原第160次）

藤原宮の中心におかれた大極殿は、東西115m、南北155mの範囲を回廊によって取り囲まれています。今回の調査は、この大極殿院回廊の東南隅にあたり、大極殿院の東面および南面回廊と、更に東へと延びる朝堂院北面回廊との接続部分を対象としておこないました。調査面積は1,425㎡。7月1日から調査を開始しています。

調査の結果、推定された位置に、回廊の礎石据付穴と抜取穴を検出しました。この場所は戦前に日本古文化研究所がトレンチ調査をおこなっていますが、当時は水路や畦畔により調査できなかった柱穴もありました。しかし今回の調査では、非常に良好に残っていた遺構を、面的に検出することができました。

基壇の両端には、基壇外装の抜取溝、さらにその外側には雨落溝にあたる浅い砂の堆積も確認しました。これらの知見から、回廊の規模は桁行14尺、梁行10尺、基壇外装抜取溝の心々間距離で約8.4mとなることが、あらためて確認できました。なお、東西方向の回廊の柱間のうち、1カ所だけ桁行12尺となる場所があるほか、回廊の交差する部分は桁行、梁行とも10尺になっていました。

10月以降、秋の現場班に引き継いで、さらに調査を進めています。現在下層の調査が進んでおり、大極殿院のみならず藤原宮・京の造営過程を解明する手がかりが得られるものと期待されます。

（都城発掘調査部 山本 崇）



調査区全景 後方が大極殿跡（東南から）